

街路樹

学力向上に向けて ～いわき市学力実態調査の結果から～

国語についてのアンケート結果

質問内容 「新しい漢字は、きちんと覚えるまで、
繰り返して練習していますか？」

「はい」と答えた割合

	全国				いわき市
	平均	上位	中位	下位	
小学校6年	60.7	69.4	61.3	50.8	61.3
中学校1年	51.9	63.8	52.3	39.1	57.1

漢字については、いわき市の児童生徒は、書けるようになるまで練習する割合は、全国と比べてやや高い。1年前の同じ項目の調査結果と比べ、肯定的に回答している児童生徒の割合が増えている。

全国的に見ると、上位に位置する児童生徒の6割から7割の児童生徒は、きちんと覚えるまで繰り返し練習している様子が窺える。また、下位の児童生徒ほど、繰り返し練習するという意識が低いことが分かる。対策として、漢字学習の意義（なぜ漢字を学習するのか）や漢字学習の有用性（表現において、どんな点で漢字が有効か）について指導するなど、漢字への興味関心を高めることが必要である。また、家庭での学習習慣が定着するよう、きめ細かく丁寧に指導することが必要である。

教育関係図書のお知らせ

教育センターの蔵書は現在1500冊です。インターネットからも図書の検索ができますのでどうぞご利用ください。



板書・ノートの指導技術 ⑤

～日々の板書について見直しましょう～

Q. 板書の消し方は、どうすればよいでしょうか？

A. 1時間の学習内容がわかるように板書をするので、消すときも機械的に行うのではなく、次の点に心がけるとよいでしょう。

①学習内容をまとめながら消す。

板書をノートに写す・板書を読むなど「からだで学ぶ」活動は、学習の定着度が高くなります。

子どもが板書内容をノートに整理できたら、板書を全部読んでから消すとか、読んだところから消すなどして、学習内容のまとめを行う方法も効果があります。

②一部を消すことによって確かな知識の習得をめざす。

暗記させる方法として、次のような板書の消し方を行うと、はじめは困った表情の子どももいますが、徐々に興味が高まり「もっと消して」という声も出てきたりします。

～春のうた～

ほっ (まぶしいな)
ほっ (うれしいな)
みずは (つるつる)
かぜは (そよそよ)
ケルルン (クック)
ああ (いいにおいだ)



※ () 内は消した部分

暗記を伴う学習、つまり面積や体積を求める公式を覚えさせたり、社会科で土地の名や人名などを覚えさせるときに効果が上がります。

研修の感想紹介

初任者研修「養護学校参観研修」

<講義・実習>

○一人一人の子どもの実態が全てのスタートであるということ、ほんの少しの変化や成長を見逃さない目が大事であり、そこに喜びを感じるからこそ教師の仕事に意味があるのだと思います。

○集団での活動の中でも一人一人に課題があることがわかりました。手をさしのべたくなることがありましたが、それでは解決になりません。見守ることの大事さも知りました。

○言葉にならない「ことば」を読み取り、行動の背後にある「ことば」を理解することの大切さを知りました。

○生徒達と一緒に粉からこねて作ったうどんとシチューで、お昼を食べたのが心に残りました。

少人数指導法講座

<講義・演習>

○「個に応じた指導の実際」

具体的な、そして熱い思いの報告で、私も、何か指針をもって取り組まなければと思いました。結果を残す。子どもにも、保護者にも責任を持つ。ということ肝にめいじて臨んでいきたいと思う。

○「個に応じた指導の効果的な進め方」

評価するための目標設定を教師自身ももっと明確化することが大切だと感じた。目標を達成するためには生徒の実態を踏まえて教師の願いを明らかにしてどのような手立てをしていくか教師自身が意識を変えていかなければならない。子どもの評価ばかりに目がいきがちだが、本当は子どもの評価で教師自身の授業を改善していかなければならないという点に共感が持てた。